

## 「あなたの父と母を敬いなさい」エペソ6：1－3 堀田修一 20・9・20

I 文脈、つながり、鍵の御言葉→①「むしろ、御霊に満たされなさい」5：18。御霊に満たされる事なしには、自分の力では、御言葉を実行する事は出来ない。もう一つの副次的原則→②「キリストを恐れて、互いに従い合いなさい」：21。人が神に背く前は、人は、互いに愛し合い、支え合い、仕え合う関係だった。しかし人が神に罪を犯した時、人は互いに愛し合う関係から、互いに支配しようとする関係になってしまった。主は、仕える者として十字架で死なれ、支配せず、愛し合い、仕え合う共同体＝教会が誕生した。お互いが主において従い仕え合うべきだが、神の秩序としては、従う立場の側にある「妻たち」「子どもたち」が先に語られている（妻が先で夫、5：22－25。奴隷たちが先で主人たち。6：5－9）。と同時に、主を恐れ、互いに従い合う、仕え合う心がなければ良い関係は生まれない。

II 「子どもたちよ。主にあって自分の両親に従いなさい。これは正しいことなのです」6：1。

1. 「子どもたちよ」。原語：テクノン。自立段階に来ていない年齢的に子どもである状態の者達。両親は、子ども達に対して神の代理者（親は厳粛な自覚が必要）であり、家庭において子どもを愛し守り育て訓練、しつけをする重大な責任が与えられている（「これを（神のみことば）あなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを語りなさい」申命記6：7。20～、箴言1：8、3：1、4：1）→6：4。

2. 時満ちて、子ども達が、成長し、父と母を離れる（経済的にも、精神的にも自立する、大人になる＝①子ども達自身で、主に頼り判断し歩んで行く。自立している人とは、孤立、独善的になる人ではなく、人の助言にも耳を傾ける人。しかし、最終決定、決断は、主に祈り自ら決断する。結果を他人のせいや、責任転嫁をしない。決断をし、自ら責任を負う中で成長して行く人。②自分一人の力ではなく、神と神が備えられた人々の支えのおかげでここまで来られた事を感謝する人。③神の分、人の分、自分の分、協力し合う分をわきまえる人。④ここまで育てたら、親は、神から授けられた子どもを、全能の神に委ね祈る。見守り祈る。過干渉をしない。

3. 「主にあって自分の両親に従いなさい」。「主にあって」＝①主から愛と謙遜をいただいて。両親に従い敬い尊敬するのは、それが、私達を命を懸けて愛しておられる主に対する服従の一部だから。両親を敬い従う事は、主が願っておられる事だから。②主のみこころに添って。主のみこころに反する事を求められた時は従えない。親や国が、真の神への信仰、礼拝を禁じ、親や国が、真の神以外のものへの信仰、崇拝、間違った戦争を強要する時は従ってはならない。「神に従うより、あなたがたに従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。…人に従うより、神に従うべきです」（使徒4：19、5：29）。但し、バランスを崩し、反動で、すべての事に反抗するようになってはならない。神の前に、どれには従い、どれには従えないかを主に伺い判断したい。またその時も、ある事には従えなくても、親を「敬う心」を失ってはならない。（事や意見と人格の区別）。神の摂理の中で与えられた親（夫も妻も子どもも）、ここまで愛し苦労して育ててくれた親である事の自覚と感謝を忘れず。証し：父と母への感謝。③私達の最高の模範である主イエスは、地上におられた時、両親に仕えられた。「イエスは…ナザレに帰って両親に仕えられた」（ルカ2：51）。私達の罪の為に十字架で死なれる時には、残される母のことを思いやり、愛する弟子に大切な母を託された（ヨハネ19：26、27）。

4. 「これは正しいことだからです」：1。それは主に喜ばれる事だからです（コロサイ3：20）。

Ⅲ「あなたの父と母を敬え。」これは約束を伴う第一の戒めです。：2。

1. 私達が、幼い時、神の代理者である親に守られ、指導され親に従う段階は、自立する、大人に成長する（親の信じている神から→自らの意志で主を信じ、主と結ばれ、主に頼り、主の御言葉に従うように成長して行く）段階で終わる。

2. しかし、父と母を「敬う（原語：尊ぶ、尊敬する、恩に報いる。I テモテ5：4）」事は一生続く。うわべだけではなく、心から尊敬する。神がご計画により与えられた親である故に、産んでくれて、愛し苦労しつつ育ててくれた親である故に尊敬し愛する、感謝する。年老いても、存在が、高価で尊いと認める。「自分の家の人に敬愛を示して、親の恩に報いることを学ばせなさい。それが神の前に喜ばれることです」（I テモテ5：4）。100 家族あれば、それぞれに親への真実な愛の示し方がある。それを祈り求めて実行できますように。できることから愛を。私が経験しつつ教えられている事。①自分もいつか老いて、子ども達か、他のどなたかに、お世話をしていただかなければならない日が来る事を覚え、へりくだる。②人は、自ら好んで、老いたり、認知症になるわけではない事を覚え、思いやる。年を重ね、徐々に出来る事が少なくなっていく事を寂しく思う事を理解し思いやる。私達の親も、自分の親から完全な愛を受けて育ったのではない事を理解して思いやりたい。※証し。③自分の愛、忍耐だけでは限界だと認め、神に愛を求め、他の色々な介護や専門の機関や助けの援助を求める。神はキリスト者だけではなく、キリスト者ではない方々の中にも、必要な助言や助けを与える人々を備えておられる。証し。④介護される側も、つらい気持ちがある事を理解する。お世話をいただく事はありがたいが、申し訳ないという気持ちも起きる事を。⑤親と子ども達が、心と会話が通じる間に、日頃から、老後の事、何を残し何を処分するか、重い病気になった時の事、人生の最後を家で迎えるか、介護施設か、病院か、ホスピスか、葬儀（天国行き）をどうするか、家族の連絡先を教会に知らせておく事等を話し合っておく事は大切である。良く祈りつつ協議をしたい。「協議によって計画は確かなものとなる」箴言20：18。と同時に、人間の考えと神のなさる事は違うことがある事も覚えておきたい。「人の心には多くの思いがある。しかし、主の計画こそが実現する」箴言19：21。※証し。家族構成や家族の体力や経済的な事もあるので、人それぞれで良いのである。他の人々と比べる必要はない。「一人ひとり神から与えられた自分の賜物があるので、人それぞれの生き方があります」I コリント7：7。⑥主が臨在される教会やセルで重荷を降ろし祈り合う。「これは約束を伴う第一の戒めです」：2。「これは第一の戒め」=十戒の中で、1から4戒までは、神と人の関係の戒め。5番目の戒めの「あなたの父と母を敬え」から人と人との関係の戒め。その第一に来るのが「あなたの父と母を敬え」。これが、なおざりにされるなら、社会を崩壊に導くほど重要なもの。人間が、神の代理として立てられた健全な権威に従わなくなると、地上は無秩序、無法地帯となる。※もちろん、聖書は、見事なバランスをもって、正しい識別力のある従順を教えている。権威を持つ人は、権威を乱用してはならない。私達は、主に救われ、主の熱い愛で愛されている。私達は、地の塩（罪、悪の腐敗の防腐剤の役）、世の光、主の証し人として、互いに、教会の兄弟姉妹、夫と妻、親と子が主の愛をいただいて、愛し合い、尊敬し合い、仕え合うことができますように。不法がはびこり、冷たい世の中で、まだ主を知らない人々に救い主を伝えたい。間違った教育ではなく、主の教えを人生の土台としたい。

Ⅳ「そうすれば、あなたは幸せになり、その土地であなたの日々は長く続く」という約束です。3節。父と母を敬う時、神の祝福がある。私達が、この地上を去る時に何歳になっていようと、神の祝福といつくしみ深い御手の中にいる。神は、神が与えられた「父と母を敬う」人々を喜び、見守り、ほほえみ、祝福を与えて下さる。「自分の家の人に敬愛を示して、親の恩に報いることを学ばせなさい。それが神の御前に喜ばれることです」I テモテ5：4。「主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません（愛をもって仕え合いなさい）。…そして、それを行うなら、あなたがたは幸いです（祝福される）」ヨハネ13：14、17。